第４次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第３回）　議事要旨

日　時：令和元年１１月２９日（金）午後３～５時

場　所：多摩市役所　401 会議室

出席者：

笹井　宏益委員（委員長）

梅澤　佳子委員（副委員長）

青木　ひとみ委員

野口　享子委員

五十嵐　亮委員

小泉　雅子委員

小林　攻洋委員

松本　俊雄委員

木村　治生委員

岡村　志穂委員

喜多　尚美委員

欠席者：なし

傍聴者：なし

＜会議次第＞

１．開会

２．議事要旨確認

３．報告

（１）生涯学習に関するアンケート実施報告

（２）多摩市の生涯学習を考えるワークショップについて

４．議事

（１）生涯学習推進計画の方向性について

５．その他

６．閉会

＜配布資料＞

【事前配布】

・第４次多摩市生涯学習推進計画策定委員会　次第

・資料１　第４次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第２回）　議事要旨（案）

・資料２　「生涯学習」に関するアンケート調査報告書

・資料３　多摩市の生涯学習を考えるワークショップ　結果報告書

・資料４　計画の基本理念と目指す方向について

・資料５　多摩市の生涯学習をめぐる課題整理

・資料６　令和元年度　第４次多摩市生涯学習推進計画策定委員会　年間予定（案）

・参考資料　第３次多摩市生涯学習推進計画

・参考資料　第五次多摩市総合計画第３期基本計画

【机上配布】

・資料１　第４次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第２回）議事要旨（案）（差し替え）

・資料４　計画の基本理念と目指す方向について（差し替え）

・資料５　多摩市の生涯学習をめぐる課題整理（差し替え）

・生涯学習に関するアンケート（障がい者対象）結果

１ 開会

（笹井委員長よりあいさつ）

２ 議事要旨確認

【委員長】

議事要旨の確認をお願いします。第２回策定委員会の議事要旨について事前に事務局より（案）の状態でご確認をいただいていると思います。もし修正等ございましたらお申しつけください。よろしいですか。以上で確定といたします。名前を伏せてある机上配布資料を公開用といたします。

３.報告

（１）生涯学習に関するアンケート実施報告

【事務局】

次第３.報告（１）生涯学習に関するアンケート実施報告をいたします。資料２に基づいて業務コンサルタントから内容を説明いたします。資料２の説明後、机上配布の障がい者団体を対象としたアンケート調査結果について事務局より説明いたします。

【事務局】

（資料２について説明）

【事務局】

（机上配布資料「生涯学習に関するアンケート（障がい者対象）結果」について説明）

【委員長】

２つのアンケート調査の結果をご報告いただきました。市民全体を通してのアンケート調査、障がいを持っている方へのアンケート調査結果でした。議論は後に行いますが、今の報告に関する質問等ありましたらお願いします。

【委員】

当初、アンケートを送った際に障がい者の方が見ても分からないのではないかという意見から、新たに分かりやすく作っていただきましたが、後半部分の質問内容、調査内容まで変わってしまったのが残念だと思いました。

【事務局】

全体アンケートと障がい者向けのアンケートの設問内容が異なる点については、なるべく設問を簡略化した方がよいと思った部分もあります。また、主にどういった課題を抱えていらっしゃるかという部分に焦点を当てた設問にしました。

【委員】

アンケート後半部分について障がい者の方は、ボランティア活動をされる側と捉えてしまう内容にな

り、差別と思う方もいるかもしれないと感じました。やはりどちらも同じ内容でよかったのではないかと思いました。

【事務局】

その部分に関して逆の視点で、人間の土台として「人の役に立ちたい」という気持ちが障がいの有無を問わず皆さんあることを前提に考えました。ただ逆に、アクセスしたいが障がいがあるからできないと考えているとしたら、それを取り除く必要があると捉えました。一般向けのアンケートでは障がいの有無を問うてはいませんが、回答される方に障がいをお持ちの方も含まれていると思っています。よってアクセスできない部分をどう解決するかという視点で作成しました。

【委員】

今回多く回収できた背景として、配布されたアンケートについては、私の選出母体である知的障がい者・知的障がい児の親達の会がサポートしたからです。ただ配布して終わるのではなく、配布後のフォローについて、私たちが行うのではなく事務局側も、もう少し動いて欲しかったと思います。

【事務局】

それについては本当に申し訳ございませんでした。ただ結果として、私どもの至らない部分を皆様が補ってくださったことにより、たくさんの回答をいただけて本当に感謝申し上げます。頂いたご意見については今後の反省点としてつなげていきたいと考えています。

【委員長】

そのご意見は、もっともな指摘だと思います。我々委員としても是非、障がいを持っている方の率直なお気持ち等を代弁していければと思います。よろしくお願いします。

【委員】

アンケートの詳細結果ありがとうございました。データの示し方についてです。１０代、２０代のサンプルがとても少ないので、可能であれば１０代～３０代を一括りとして「若い層」と「高齢者」として比較して読み取ってみてはいかがでしょう。それから後ろに細かいデータを示していただいて、ありがたいと思いました。全体を読み取れますが、細かい区分ではなく、ここも幾つかに括ってみてはいかがでしょうか。そうすると傾向が読み取りやすくなると思いました。

【委員長】

それは、大まかな傾向に分けて提示するといったご指摘ですか。

【委員】

例えば１０代は（回答者が）５人しかいないため１人が２０％になるので、ここから傾向を読み取るのは難しくなると思います。

【委員長】

カテゴリー・母数を大きくして分析するといったご意見ですね。いかがですか。

【事務局】

１０～３０代、４０～６０代と分けてはいかがでしょうか。

【委員】

４０～５０代がいいと思いますが、内容によって母数が小さくなるものもあるので、１０～３０代、４０～５０代、６０～７０代以上と分けるかだと思います。

【委員長】

世代別にカテゴライズするのは技術的に可能ですか。

【事務局】

次回までにお示ししたいと思います。

【委員長】

他はいかがですか。次へ進めます。

（２）多摩市の生涯学習を考えるワークショップについて

【委員長】

（２）多摩市の生涯学習を考えるワークショップについての報告をお願いします。

【事務局】

（資料３について説明）

【委員長】

私は、講師として、始めから終わりまで見させていただきました。参加人数は多くなかったですが、結構充実した議論があったと思います。若い人の参加が少なかったので残念だと思いました。やはり先ほどのアンケート調査とセットにして考えなければいけないと思っています。貴重な機会ではありましたが、全体として市民が思っている課題がどこにあるのか、それを我々が決めていかなければならないと思いました。ワークショップに参加いただいた方、コメント等あればお願いします。

【委員】

当日、傍聴だけに行こうと思っていましたが、是非グループに入ってくれと言われて参加しました。委員長のご意見にあったように、若い人から生涯学習への認識、意味が分からないといった意見がありました。アンケートにもつながる意見だと思います。（ワークショップの）最後に委員長が「ヨーロッパでは生涯学習は理念だ」と話していました。それを聞いて私は、一定の考え方でなくていいと思いました。特に私のグループでは、学校とのつながりを非常に大事にしている方がいました。それから多摩市に引っ越して来て間もなくという方がいました。その方は、参加したくても場が分からない、機会がないと言っていました。私のグループでは講座だけでなく、もっと半官半民の気軽に多世代が集まれる場が欲しいといった意見が多かったです。

【委員】

最初、３時間は長い時間と思っていましたが、あっという間で、最後には足りないと感じるくらいでした。私も見学の予定で行きましたが、結果参加しました。３グループに分けて同じ世代の方とお話したときは、とても共感できる部分が多く充実した話し合いができました。それから若い方など違う世代の方も入っての３グループで話した際は、新しい発見もできました。全体を通して有意義だったと思います。いろいろな意見を聞いたことで、自分自身も生涯学習させていただいたと感じ、大変楽しかったです。

【委員】

世代別の参加人数を教えてください。

【事務局】

若者世代が３名、壮年世代が４名、高齢世代が６名です。

【委員】

それで合計１３名ですね。分かりました。少ない割にいろいろなご意見が出たなと感じました。

【事務局】

テーブルファシリテーターとして、業務コンサルタントが１人ずつ付きました。

【委員長】

議論は、また後半で行いたいと思います。

４．議事

（１）生涯学習推進計画の方向性について

【委員長】

続いて４.議事に移ります。議事について生涯学習推進計画は、市民の課題（生活課題）みんなで共有できる地域の課題等をアンケート・ワークショップ等で洗い出しをし、我々が議論していく作業が必要で、同時に行政計画（市役所がつくる計画）でもあります。そうすると市民の意見をまとめるだけでなく、今までの計画との連続性、上位計画・市のスローガンとの整合性が問題になってきます。こういった部分をどう考えているかを含め事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料４・５について説明）

【委員長】

方向性については、第３次計画との連続性で、ある程度規定されます。もう１つ上位計画との整合性で規定されます。その枠組みを資料４で示しました。最終的な計画は、現在或いは、将来の課題に対しそれらを拾い上げて枠組みに当てはめる作業をしなくてはいけません。課題については、アンケート・ワークショップなどで出てきました。それらを表にしたものが資料５です。表に「社会情勢」

「多摩市の動向」項目があります。社会的、市として、地域として学んで実践して欲しい、必要だと考える内容を各項目に入れて整理表を作成してもらいました。この資料だけで必要十分とは限らないが、目を通していただいて、内容・文言・表現に関する意見も含め、率直な意見をいただきたいです。

【委員】

ワークショップの結果を見て、私はこの会自体が素晴らしい機会だったと感じました。仮説になりますが、課題となると焦点が小さくなると思うので、大きな目で見て１人１人が自分自身を知る、考える場所があればいいと考えました。「健幸なまち」という言葉が入っていますが、幸せとは誰かが決める又は、行政が決めることではなく、本人が健康で幸せであると認識しなければ一生たどり着けない場所にあると思っています。よって多様な方が、それぞれの考え・意見を話せる場所が大切と思いました。ワークショップへの２０代・３０代の参加が低かった理由を考えてみたところ、自分事と少し離れた世界観だと思っています。つまり生涯学習について考える時間を作らなかっただけ。例えば、これが自分のためになると分かる、考える機会があれば参加するのではないかと考えました。

【委員長】

それは居場所ということですか。１人でいるのであれば、自分の家・部屋などがありますが。

【委員】

自分の家ではないです。結局誰か他者がいないといけない。他者がいて自分を知る、自分を知って他者を知ることは、切れないと思っています。課題と直接関係していませんが半官半民でのコミュニケーションを取る場所。行政が入り過ぎるとデリケートな部分もあり難しいと思います。

【委員】

ワークショップに参加した若い人の中から、学ぶのであれば本を読んだりして学べるが、大事な事はお互いに共有できて話し合えることだといった意見があり、とても印象に残っています。

【委員】

私も同じ意見です。ワークショップで世代を分けて話し合いをされたことが、良かったか分かりませんが、いろいろな意見に耳を傾ける場があることによって幸せを感じられるのではないかと仮説を立てました。

【委員長】

ご意見の主旨は、よく分かりました。私にとって居場所は、議論（ディスカッション）ではなくて対話（ダイアログ）本音を語れる場という意識があります。小林委員のご意見についても理解しました。

【事務局】

ただいま「幸せ」について意見が挙がったので、多摩市の健幸まちづくりについてお話させてください。健康（ヘルス）に特化している市町村は、とても多いです。多摩市は、それだけでなく幸せ、つまり人々が心でどう感じるかという部分にもしっかり取り組んでいくことで進めています。そういった意味で生涯学習の分野は、非常に大きな要素だと思っています。「場づくり」といった中で健康福祉部では、社会福祉協議会と一緒になってサロン活動に取り組んでいます。多摩市内で１００箇所を超えるサロンが発達しています。ただ、こういったサロン活動への参加は高齢者の方が多いため、若い方をどう

やって取り込んでいくかが、大きな課題です。多摩市では、健幸無関心層（とくに若者）に関心を持ってもらう活動として来年サンリオピューロランドで企画を行う予定です。若者にまず活動を知ってもらうためにも、何か引き付けられる物と合わせて発信していきたいと考えています。

【委員長】

今の事務局の発言主旨というのは、いままでの委員の方のご意見と重なります。

【委員】

ただし私は、多世代がいいと思います。

【委員長】

東京都アルクでは「きずなカフェ」サロンをたくさん作っています。高齢者の心の幸せ、他者と接することでの心の幸せを目指して活動しているところもたくさんあります。小林委員のご意見だと多世代ということですね。

【委員】

私も多世代で考えています。年齢に関係なく触れ合う場、考える場が欲しいです。そこに多様な方が入ることで、より考えるきっかけができると思います。

【副委員長】

いまのご意見は多分、プログラムではなくスペース（場）だと思います。それが今、とても求められていると思います。例えばコミュニティセンターは、サークルが利用するなど限られてしまいます。婦人会館・児童館など目的が限られたものではない場だと思います。家の中にいるより外で過ごしたい時に、いろいろな方たちが行ける場所といったイメージだと思います。

【委員】

関連したことで、サロンは特定の人が利用するイメージですが、カフェというか、もっとハードルの低い場所です。これも含めてもっと公的な、行政が少しだけ関わる場所が必要だと思います。

【委員長】

銭湯カフェなども流行っています。人が集まってお風呂が終わってから交流するなどの場所も増えてきているといった話も聞きます。

【委員】

関連した意見です。タウンニュースでご存知の方もいるかと思いますが、最近諏訪地区に子どもから大人まで行かれる場所がオープンしました。多摩地区に昔からある商店街は、シャッター街になってしまって介護関連の施設しかオープンしていません。そういった施設が既にいろいろなところに場を何年も前から作っていますが、せっかく場があっても、来るのは限られた方だけになってしまっています。新しい場所もコーヒーが飲めたり、食事ができたり、子ども食堂の様な場ではありますが、期待して覗いてみると人が少なかったです。私は、結局そういった場をつくるだけでは、だめだと思います。

【委員】

同じように思います。やはりアンケートの結果などを通して感じたのは、若者の関心が薄いということです。資料２（２６ページ）「問１５　多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためには、行政はどのようなことをすれば良いと思いますか。」に対する回答「地域や社会活動に関する情報提

供が必要」に回答されている方が半数以上います。多摩市に１００軒以上あるサロンなどの情報の発信方法は、どうなっているのですか。掲示板への掲示ですか。

【委員】

そうです。そういった掲示板が地域ごとにあります。カフェだと時間の制限もなく誰でも行けるので、そういった場所が欲しいと思います。

【委員】

素敵なカフェがあるといった情報も、近所の方だけしか分からない。例えば知らない人が外から見て、カフェに人が入っていなかったら賑わっていないと感じてしまいます。私の世代での話になりますが、多摩市で親子カフェが幾つか出来ては消えています。やはり民間が介入すると利益が取れないです。一方でお母さんたちは、そういった場所を欲しがっています。そこで、無関心世代にも自動的に情報が入ってくる仕組みをつくれば、いいのではないかと思います。

【委員】

情報発信についてワークショップでも、役所が一方的に発信するものは役に立たないといった意見がありました。やはり口コミがいいです。

【委員長】

さきほどのご意見は、コミュニケーション的な機能がなければいけないといった主旨だったと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

そうです。例を挙げると居酒屋です。その場に行くことで癒されたり、知り合って仲良くなったりする。そして自腹でお金を払ってまで行きたくなる。そういった本当の意味でのつながりが持てるような場所です。やはり食べ物・飲み物がないと、なかなか人間はリラックスできないと思います。公民館などは飲食禁止です。ある程度の制約は仕方ないですが、頭を少し柔らかくして考えていけばいいと思います。

【委員長】

ほっとできる場所が求められているのだと思います。情報発信の問題と場の運営の問題をどう解決していくかだと思います。

【委員】

例えば多摩市で集える場所の一覧を、直ぐに見ることができればいいと思います。興味を持ってアクセスしてもインフラが整っていないと到達できないケースがあると思います。とてももったいないです。こうなると生涯学習だけの話ではなくなってきますが、そうしないと多摩市の魅力が若年層に伝わらず入ってこないと思います。

【委員長】

ワークショップでも、広報が下手といった意見がありました。

【副委員長】

第２回の策定委員会でも、この議論はありました。

【委員】
そうですね。いつも思っていたことです。
【委員】
ホームページ上で「地域デビュー手引書」を発見しました。私は、これはとてもいいと思いました。１００～２００位の各団体が紹介されていますが、それをネットで検索できるようになりませんか。冊子だとハードルが高いです。
【事務局】
もう１つ「市民活動情報検索サイト」があります。手引書と同じく各団体を紹介しているページが別であります。
【委員】
ものすごく多くないですか。
【委員】
我々は、そういった情報は必要ないです。もっと魅力的な口コミ情報がたくさんあった方がいいと思います。
【委員】
やはり、なかなか地域でネットワークを持っていない若い人などは、口コミの情報そのものが入ってこない状況だと思います。
【委員】
ＪＲが開放している場所に子育て中のお母さんがたくさん来ていて、そこでつながっています。
【委員】
そういった仕組みはいいですね。
【委員】
圧倒的に若い人が多いです。
【委員長】
リアルにハードルを下げた集まれる場所。バーチャルに情報発信をどんどんするといった両方が必要だと思います。
【委員】
住民票を登録した瞬間に「多摩市アプリのご案内」といったものが届いて、登録したら自動的に情報が届くといったことがあればいいと思ったりしました。多摩市のホームページを見てもＰＤＦファイルなど開かないと見えない状況です。
【委員】
民間の役割と行政の役割をしっかり分けないといけないと思います。そこまでを行政に求めるのは酷な話だと思います。それを請け負った団体がＳＮＳ等で常に発信していくことは可能だと思います。
【委員長】
私は多摩市以外の地域に住んでいますが、私の居住地域も情報発信が下手だと感じています。改善の余地は、たくさんあると思います。スマホ用のサイトは、ありますか。

【事務局】
はい。
【委員】
情報検索しても、一般的な情報しかでてこないです。欲しい情報まで辿り着かないことが多く、分かりづらいです。
【事務局】
キーワード検索をしていただくと、必要な情報に辿り着きやすいです。
【委員長】
それは後々どういった対応をするかであって、例えば市民団体が対応しても構わないです。行政は行政で改善しようとしていると思います。各団体・機関或いはリアル・バーチャル等いろいろな形の情報交流の実現が必要と思います。
【委員】
バーチャルで得た情報で、実際その場所へ足を運んで人との触れ合いで学ぶことができる。そこに行って学ぶことができることが理想的だと思います。１０年前の策定委員会の発信から、いつも若者世代の関心が低いです。それも本当は関心があるが辿り着けなかったとすれば、もったいないと思います。
【委員長】
ご意見の通りです。どういった対応をしていくかについては、もう少し後で議論しましょう。本日は別の課題も提案していただきたいと考えています。他に思いつく課題がありましたらお願いします。
【委員】
市民にとっての課題になるか分かりませんが、ワークショップで挙がった意見にもありました学校という場、学校教育とのつながりも考えてもいいかもしれないと思いました。子どもを持っている世代にとって学校は身近な場所なので、自分の経験にもつながる学校という場を使った学びを考えてもいいと思いました。
【委員長】
今のご意見について、いかがでしょうか。
【委員】
親父の会は、とてもいいです。
【委員】
教育委員会の付属機関である「学びあい育ちあい推進審議会」で、ずっと前からの課題として地域と学校との交流について話し合って進めています。いろいろと課題を出し合い、コーディネーターさんもいて体制としては整っています。ただそれが機能しにくいのは、やはり安全面での問題、先生方が忙しいなどがあり、なかなか実現できない状況です。世話人の方、親父の会、ＰＴＡが自主的に行う分には全く問題ないです。ただこういったボランティア活動へ取り組んでいただいているのは一部の方だけです。特に地域の高齢者の方は逆に、ご自身たちで学校へ企画を提案したりしていますが、校長先生の方針などがあるため実施への垣根が高かったりします。実際に子どもたちは授業数が足りない状況なので、授業のなかで行うことには無理があります。学校では放課後こども教室があり、いろいろなものが交錯

しています。私たちは常々一本化したほうがいいと思っています。

【委員】

私も実際に放課後教室、多摩中学校のコーディネーター等いろいろと関わっています。それらは社会福祉協議会福祉推進委員会でのネットワークで、つながっています。私は、地域の人たちが知り合うことが大事だと思っています。いきなり学校へ話を持っていっても実現できない話です。

【委員】

極論かもしれませんが、みなさん同じような共通した課題を持って取り組んでいます。いろいろな柱で行っても効率が悪いと思うので、そこをまとめる、横断的に統合していかないと時間の無駄だと思います。

【事務局】

補足させてください。地域と学校の関わり方という内容でご意見ありましたが、多摩市の場合、生涯学習はくらしと文化部で行っていますが、教育委員会で教育振興計画をつくっています。来年から教育振興プランの改定をします。そのなかでは、地域学校協働本部で地域と学校をつないで、子どもたちと地域の人が学べる学校にしていくという施策事業があります。教育振興計画の施策に位置付けられています。生涯学習と似ているといったご意見があると思いますが、生涯学習は全世代を対象とした学習です。その中の子どもの学び・教育に焦点をあてた公立の小中学校に入っている子どもたちの学びを支えたりするといった位置付けが教育振興で地域学校協働本部です。結果的に子どもたちの学びを支えつつ、子どもたちに教えたり、教えられたりすることで大人が関わることで社会教育の役割が示されていきます。重なり合う部分がありますが、目的として教育振興プランは子どもたちの教育。生涯学習推進計画は、そういった部分も含め、もっと広くまとめた包括的な計画と捉えていただきたいと思います。最終的に計画の形になったときに、地域学校協働本部なども教育から示されて見えてくる部分があります。

【委員】

他の委員さんでご存じない方もいるので、先にそういった部分を説明いただかないと困ります。

【委員長】

今の事務局説明も踏まえて、他の委員の方はどうお考えですか。以前から学校・家庭・地域の連携と言っていましたが、なかなか進んでこなかったです。

【委員】

環境として、そういったことは求められていることは間違いないと思います。それから子どもが地域から学ぶ経験的な学びは重要になっています。要するに地域の大人と関わる大切さです。現象は一緒だと思います。それを学校教育側から見るか、生涯学習側から見るかの違いであって、地域の大人が関わって子どもを育てるという、行う内容は一緒です。そこを分けて議論することがもったいないと思います。

【委員長】

例えば放課後子ども健全育成事業と放課後子ども教室と２種類あります。片方は厚労省系の事業で、片方は文科省系の事業です。それは保育と教育をずっと別々で考えてきたからです。ヨーロッパでは保育と教育を一緒に考える動きがあります。ただ保育系と教育系が一緒になることはかなり難しいです。

これと同じ発想で子ども園があります。保育園と幼稚園を一緒にする動きですが、なかなか難しく、上手くいっていません。そこで最近は、違いを認めつつ協働でやる形になっています。だから統合ではなくて協働になっていると思います。そういった意味では、それぞれの良さを活かしつつ協働で行うことです。文科省が最近地域学校活動計画を唱えていますが、学校と地域も一緒にするのではなくて、違いを認めて方向は一緒にやるとなっていると思います。そういったときに、仕組み・制度は裏面的です。ところが実際の機能が上手くいっていないのが現状で、それはボランタリーな活動だからだと思います。仕組み・制度となれば、給料払えばやりますが、学校支援ボランティアさんは、みなさんボランティアです。そこでずれがでてきて、いくらやりたくても先生や集まってくる地域の人たちが一生懸命やらなくてはいけないという点での問題があります。これをどう実現していくかが、大きな課題だと思います。ただタイミングとしては今が一番いいタイミングです。どうやって学校を開放して地域の人たちを受け入れて協働していくかが、多摩市でも当てはまることだと思います。

【委員】

多摩市はＥＳＤ等を先進的にやっているので、そういったことをもっと広げればいいと思います。

【事務局】

ＥＳＤ教育は、全校ユネスコ指定ということでやっています。地域学校協働本部も全校で広がろうとしてはいます。

【委員長】

今ＳＤＧｓという国連がつくったものになっています。ＥＳＤはユネスコです。ＳＤＧｓは１７の目的があり環境問題からはじまって、いろいろと貧困の撲滅などあります。それは社会的に必要だと思います。多摩市もユネスコスクールに全校なっているので、意味あるように活動するといった主旨を計画に入れてもいいと思います。

【委員】

それは実際に無理だと思います。はっきり言わせていただくとＳＤＧｓも何も国連がつくったものに日本人が１つ１つやる必要がなく多摩市は多摩市に必要なことを実施すればいいと思います。もちろんＳＤＧｓも良い内容ですし、間違ってはいません。ただ頑張って全部を実行する必要はなくて多摩市は、多摩市独自で必要な内容だけを重点的に子どもたちに教えていけばいいと思います。地域で必要なことを、しっかり見極めて課題として集中的に子どもたちに実践していくほうがいいと思います。ユネスコ・国連といった他人がつくったものではなく、本来は多摩市独自のものをつくるべきだったと思います。

【委員長】

それらから多摩市に必要なものに絞ればいいと、私も思います。

【委員】

ユネスコスクールのメリットが何かといえば、外国の方たちとのちょっとした交流はできます。ただ実際問題学校内部は、先生も生徒もそういったことをしている余裕がないです。学校にこれ以上を求めるのは、気の毒だと思います。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

ワークショップの意見に幾つか企業・民間との関わりといったキーワードがありました。地元の企業が生涯学習に関われるようなことを行えば、より活性化すると思います。1 つの課題として把握しておいてもいいのではと感じました。地域で働いている方を活用するといった観点があってもいいと思います。

【委員長】

例えば、どういったイメージですか。

【委員】

例えば私も参加している「せいせきみらい活性化実行委員会」では、多摩市経済観光課と市民が協力して花火を打ち上げるイベントを企画しています。京王電鉄さんなど地域の活動をされている企業も参加されています。みなさん業務があるので１９時以降でないと集まれませんが、企業の方ならではの資源等の提供をしてくださいます。またフェスティバル当日になると大きな広がりを見せてくれたりします。多摩市には、まだまだ大きな企業が幾つかあるので、そういった企業を巻き込めるような仕組みがあるとインパクトのある活動ができ、魅力的なまちづくりにつながると思います。学習となると学校や教育機関が先に頭に浮かびやすいですが、現実的に厳しい面もあるので、企業の中などには多くのアイディアを持っている方もたくさんいると思うので、企業そのものを巻き込むといった観点を計画の中に打ち出せればいいと思いました。

【委員長】

いったん区切りをつけさせていただいて、その他お気付きの点があればお願いします。

【委員】

人と人とのつながり、触れ合い等理想論をつくっていますが、これをみなさんがつくり上げた後に、どうやって各地域に浸透させていくのか。委員のなかに自治会長さんなどがいらっしゃるのか分かりませんが、地域団体などに正確に伝えていかないと全く浸透しません。このような資料を自治会に持っていって配布しても誰も真面目に見ません。どうするかというと、地域ごとにこの理想論を理解してもらうことが必要です。これらを一度にやろうとしも無理があります。できることから１つ１つしっかりと完成させて集合させることが大切だと思います。今度自治連の勉強会があります。そこで地域ごとの活動・困っていること・課題などを勉強します。こういったことを実施していかないと、なかなかまちの活性化へつながらないです。人との触れ合いは、お祭りやサロンなどを積み重ねていくことによってできてくるものです。地域ごとにこういったことをやっていかないと、まち全体でやっても無理だと思います。よって高齢者の場合は高齢支援課、社会福祉協議会を巻き込むなどして１つずつ重ねていくしかないと思います。１回でまとめて、完成する仕事ではないので、大きな器の中で話し合ってまとめていった方がいいと思います。

【委員長】

大きな器の中でという意味はどういったことですか。

【委員】

ワークショップです。我々だけで話し合うのではなく、いろいろな団体を巻き込んで。町全体の団体

を１箇所に呼んでグループワークを実施したほうが手っ取り早いと思います。

【委員長】

実は先日のワークショップもそういった主旨で、できるだけたくさんの方に来ていただこうと開催しましたが、なかなかそうはいかなかったです。各団体を指定してということも１つの方法です。適宜団体さんから意見を伺いながら実施していきたいとは思いますが、いろいろな意見を出してもらうという意味では、先日のワークショップでした。原案をつくった段階で、いろいろな団体さんにもフィードバックしてご意見をいただきたいとは考えています。

【委員】

私は愛宕地区全体の連合会もやっています。実は、みなさんからの意見に挙がったことを実際にやっています。前回の資料（第２回策定委員会 参考資料　活動紹介シート）にたくさん写真が掲載されていましたが、サロン・おむすびプロジェクト・そうめん流し等まちぐるみで行っています。そういったことを実施すると人とのつながりができます。

【委員長】

先ほどご意見のあった広報の周知徹底に関する問題など、ホームページを充実するなどありますが、事業化して一緒にイベントを開催するでもいいと思います。

【委員】

集まりを持つと、生涯学習だけではなく、防犯・防災などいろいろな話がその場で出来ます。

【委員長】

地域ごとの集まりなどの機会を増やすといったことです。

【委員】

私は全てに関わっています。そうなると私にとっては、人を集めるのは意外と簡単です。

【委員】

食べ物などでお誘いするのですか。

【委員】

食べ物は、やはり一番呼び込みやすいです。集まって飲食する、よく噛む、よくしゃべる、よく笑うが老化防止にも、とてもいいです。

【委員長】

確かに食べることは、人間の基本的欲求です。

課題を出していただいたのですが、枠組み・方向性として資料４にある社会参加、人とふれあうことの第一歩だと思います。これをどんどんいろいろな形でやっていくことが生涯学習第４次計画の目指す方向「１　学びの一歩をふみだせるまち」です。

「２　いつでもどこでも自分を高められるまち」は個人が環境整備をして、そこで自由に学べる場・機会があってもいいと思います。

「３　学び合いでつながり認め合うまち」は関係性いろいろな人たちとつながってお互いを認め合って議論或いは、協働で実践して共生社会を作っていく。これは障がいを持っている方だけではなく、外国人、多世代も含めてつながって共生できるといったことです。

「４　学び合いと協働で輝くまち」は「協働」がキーワードで、まち全体として行政と市民、市民団体と市民といった協働が行われて、まち全体が活性化いていくイメージです。この方向でよろしいですか。

【委員】

覆す訳ではないですが、基本理念（案）『笑顔が　つむぐ　健幸なまち』の「つむぐ」が読みづらい印象を受けました。「つむぐ」をわざとひらがなにしていると思いますが、漢字にしないとイメージが湧かないです。この言葉自体が最近あまり使われていない気がします。「つむぐ」という言葉の根本的な意味から考えると『笑顔が　つむぐ　健幸なまち』は、違和感があります。それから私個人の意見として健康を「健幸」と当て字することについては、あまり賛同できません。「康」にもともとしっかりと「幸」につながる意味があるので、分かりやすい当て字にもっていくことについては反対です。言いにくい言葉を使ったキャッチフレーズは、いかがかなと思います。

【委員長】

「健幸なまち」は市のキャッチフレーズになっています。

【委員】

それは理解しています。今更と思いますが、このフレーズが言いにくい点が１番です。それから若い世代が見たときに意味が理解されるのかどうか。今ひらがな化するのが多くなっていますが、漢字にはそれぞれ意味があります。そういった面で安易にひらがな化することは、逆に意味をはっきりさせなくなっていると思います。

【委員】

上位計画との関連があるかと思いますが。

【委員長】

「健幸なまち」は、「健幸まちづくり」という市全体の大目標です。「まち」というものを生涯学習でつくっていく目的が「1 人 1 人が笑顔になる」これは、第３次計画で使っていました。社会参加して笑顔になって自分が向上していって笑顔になり、学びにつながって協働して全体が笑顔になることから「笑顔が　つむぐ」になっています。第３次では「笑顔をつむぐ」で、目的語になっています。実は第３次計画で少しは笑顔になった人もいると仮定して社会参加してもらい、人とふれあって段階的に笑顔になって、まち全体が笑顔になるといった意味合いで「笑顔がつむぐ健幸なまち」になっています。

【委員】

あえて言うと前の計画（第３次）の方が、読んで分かりやすかったです。今回は非常に抽象的で主旨が分からないです。ただ方向性を最後に読むと理解できます。私は、なるべく分かりやすい方がいいと思います。

【委員長】

「つむぐ」を漢字にするのは、いかがですか。

【委員】

ひらがなで書いてあるから読めるけれど「紡ぐ」と書いてあると、読めなくて意味が分からなくなる若年層の方がいると思います。それから視覚的な印象で、ひらがなだと丸みがあるので柔らかい印象に

なりイメージは悪くないと思います。

【委員長】

「つむぐ」は、糸を紡いでいって段々大きくなる。段階性・段階的になっていくイメージを私は持っています。つまり家の中にいて寂しい思いをしている人が、外へ出て人とふれあって広がっていくことを「つむぐ」といったイメージですが、いかがでしょうか。

【委員】

私は分からなかったです。前回の基本理念が「笑顔をつむぐ生涯学習」でした。つまり主語は生涯学習です。「生涯学習が笑顔をつむぐ」と意味を理解できます。先ほどの委員長のご意見だと笑顔に「生涯学習」という意味が含まれているということですが、単純に「笑顔がつむぐ」だけでは理解が難しいと思います。そもそも最初に学びのイメージが薄いと感じました。

【委員長】

一番シンプルに「学びがつむぐ健幸なまち」だと分かりやすいですか。事務局としては「笑顔」にこだわりますか。

【事務局】

生涯学習という言葉が分かりにくいという意見もあり、目指すところは健幸なまちなので、誰が見ても目に入るという狙いでこういった表現にしました。逆に何の計画なのかといったご指摘だったので「学び」が入った方が計画の目的が分かりやすくなるかもしれません。

【委員長】

今日のところは分かりやすく「学びがつむぐ健幸なまち」にしましょうか。「つむぐ」は漢字でなくてもいいですか。

【委員】

構いません。ただフレーズに違和感があります。

【委員長】

では、事務局内で協議を進めていただきましょう。

【委員】

それから目指す方向「３　学び合いでつながり認め合うまち」、「４　学び合いと協働で輝くまち」が重なっていることが気になります。

【委員長】

これは「学び」自分を高められる意味だと思います。生涯学習をイメージできる別の言葉があればいいかもしれません。

【委員】

「３　学び合いでつながり認め合うまち」、「４　学び合いと協働で輝くまち」を１つにまとめた方がいいかもしれません。

【委員】

協働と輝くが難しいです。

【委員】

「４　学び合いと協働で輝くまち」が特に分かりづらいです。「３　学び合いでつながり認め合うまち」は何とか分かります。輝くのは何ですか、まちですか。

【委員長】

いかがですか。

【委員】

もう少し具体的な内容がいいと思います。

【委員長】

ではタイトルを「学びがつむぐ健幸なまち」にし、目指す方向の「３　学び合いでつながり認め合うまち」、「４　学び合いと協働で輝くまち」についてはご意見を踏まえて私のほうで検討します。

【副委員長】

タイトルに学びが入りますが、市民のみなさんに見ていただくことを前提に考えていただきたいです。生涯学習に興味・関心がある方、委員会のメンバー、市の職員以外の方が見た場合、逆に「学び」が強調され過ぎている印象を受けるかもしれません。むしろグループワークなどに参加されない方たちに学びを届けたいので、もう少し学び・協働・自分を高めるといった内容を少し控えた感じがいいかもしれません。第３次の目指す方向と基本理念は確かに抽象的かもしれないけれど、人の心に届きやすかったと思います。確かに生涯学習推進計画ですが、こんなに学びが強く何回も繰り返されることを市民のみなさまが、受け入れてくれるのか私自身は疑問に思いました。

【委員長】

副委員長のご意見を聞いて、いかがですか。

【副委員長】

正直私は、この資料４を見て、辛いと感じました。生涯学習の本当の意味合いが、誤解されてしまうのではと感じました。

【委員】

基本単語として「生涯学習」があるので「生涯」という言葉が、どこかに入ったほうがいいと思います。それから「誰もが」といった言葉が委員会でも出ていたので、そういった言葉を入れて、もとの言葉の意味を表現できるワードを入れてもいいと思いました。

【副委員長】

先程の発言と逆の発言になるかもしれませんが、これからはフワフワした時代ではありません。つまり生涯学習推進計画から、みなさんに伝わりやすい方針までのバランスがほしいと感じました。

【委員】

理念と方向の位置付けが、曖昧に感じます。目的などをはっきりと打ち出す具体的目標なのか、又はもう少し大枠で捉えて打ち出すのかで違ってくると思います。これから具体的に掘り下げていきますか。

【委員長】

今後委員会の議論で落とし込んでいきますが、レベルとしては第３次計画と同じものを考えています。確かに目指す方向の「３　学び合いでつながり認め合うまち」、「４　学び合いと協働で輝くまち」が分かりづらいといったご意見がありました。理念に「学びがつむぐ健幸なまち」が入ったので、あえて方

向性で、何回も「学び」と入れるよりは、整理したほうがいいと考えています。時間がないので、副委員長と私、事務局に一任していただきたいと思います。

他にご意見あればお願いします。

【委員】

例えば目指す方向の「２　いつでもどこでも自分を高められるまち」の、自分を高める、もいいですが「高め合える」がいいと思います。

【委員】

（資料４）右側の吹き出しを使うのは、だめでしょうか。

【事務局】

右側に「市民や行政が取り組む方向性」と吹き出しが４つありますが、これをキャッチコピー的に短い表現をしてまとめたものが「目指す方向」です。言いたいこと、イメージが右側に書いてあります。右側にある内容の狙っている部分が方向性に拾い出されているかをご確認いただきたいと思います。

【委員】

私は、この４つの柱が前回より生涯学習の目的・機能を表していると思います。前回より良くなったと思います。

【委員長】

ワーディングが抽象的だということですか。とりあえず事務局も含め、お任せいただきたいと思います。みなさまのご意見を踏まえて考えていきたいと思います。

【委員】

前回「絆」が入っていました。やはり絆があってはじめて学びも生まれるので１番目は絆がいいと思います。その後に学びがでてきて人と人のつながりがでてくると思います。

【委員長】

他にご意見ありますか。いろいろご意見ありがとうございました。いろいろな場面で議論を重ねていきたいと思います。次へ進めたいと思います。

５ その他

【事務局】

（資料６について説明）

【事務局】

資料６の内容についてみなさまからご意見なければ、決定とさせていただきます。

次回第４回は１月３０日（木）１５：００～第２庁舎会議室です。ご予定のほどよろしくお願いいたします。

６ 閉会

終了